

平和ってなに？

～戦争を知って平和を考えよう～

令和8年度版



7月12日は「宇都宮市平和の日」
7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」です

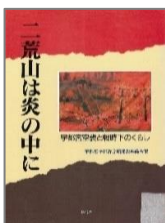
宇都宮市では、宇都宮空襲があった7月12日を「宇都宮市平和の日」、7月12日から終戦の日の8月15日までを「宇都宮市平和月間」と定め、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えています。

この期間中、宇都宮市立図書館では、平和関連の本などを集めたコーナーを開設しています。あわせて、平和を考えるための図書のリストを作成しました。どうぞご利用ください。

戦時中の栃木県や宇都宮市についての本

	タイトル	うつのみやの空襲			宇都宮市の「戦災記録保存事業」の報告書。近代の宇都宮の歴史から、戦後の平和への道のりまでを、多数の写真や資料、市民への聞き取り調査などでわかりやすく記録している。
	著者	宇都宮市教育委員会/編			
	出版社	宇都宮市教育委員会			
	分類	K210.7/ウ	出版年	2001年	
	所蔵館	全館		2011年	

	タイトル	宇都宮空襲の記憶			昭和20年7月12日に起きた宇都宮大空襲当日の記憶を中心に、市民が自身の戦争体験をつづった記録集。当時の宇都宮市で起きた、9つの貴重な体験を収録している。
	著者	宇都宮市平和委員会/編			
	出版社	宇都宮市平和委員会/編			
	分類	K390/ウ	出版年	2005年	
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	二荒山は炎の中に			宇都宮空襲・戦災の実態を、多くの図版や写真、絵を使い、わかりやすく解説。市民による宇都宮空襲の切実な体験談を交え、身近なところから平和を考える1冊。
	著者	宇都宮平和祈念館建設準備会/編			
	出版社	随想舎			
	分類	K390/ウ	出版年	1992年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	実録!宇都宮大空襲			当時市役所に勤務していた郷土史家の徳田浩淳氏が、宇都宮大空襲のあった7月12日から19日までの一週間を、自身と家族の体験を中心に克明に記録している。
	著者	徳田浩淳/著			
	出版社	宇都宮平和祈念館をつくる会			
	分類	K390/ト	出版年	1999年	
	所蔵館	中央・南			

	タイトル	とちぎ戦後80年 ～いま、おやと子で知る軍隊・戦争と栃木～			戦争の終結から80年が経過した2025年に、栃木県立博物館で開催された「とちぎ戦後80年～いま、おやと子で知る 軍隊・戦争と栃木～」の展示図録。明治初期の近代軍政の整備に関するものから戦争の終結、復興に関するものまで、幅広い資料をカラーで掲載。
	著者	栃木県立博物館/編			
	出版社	栃木県立博物館			
	分類	K210.7/ト	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	戦争が終わった日 栃木県民が語る八月十五日			昭和20年8月15日終戦の日の栃木県民の体験談。空襲・食糧難・学童疎開・勤労動員そして、肉親・友人の出征・戦死など、戦争が遠く離れた時代や地域のものではないことと、平和の大切さを知る。
	著者	編集工房随想舎/編			
	出版社	随想舎			
	分類	K200.7/ズ	出版年	1989年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

No Image	タイトル	一しずくの水 栃木県被爆者体験記			県総合運動公園内に「栃木県原爆死没者慰霊の碑」が建立されたのを機に、核兵器廃絶と世界平和を訴えるため発行された、栃木県関係者だけの被爆体験記。栃木県民も原爆とは無縁ではないことを改めて考えさせられる。
	著者	栃木県原爆被害者協議会/編			
	出版社	栃木県原爆被害者協議会			
	分類	K950/ト	出版年	1992年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	戦争の記憶を語り継ぐ(DVD)			宇都宮空襲、シベリア抑留、インパール作戦などを体験した栃木県内在住者たちの証言を集めた2枚組DVD。当時の心理状態や悲惨な生活について細部まで語られており、ひとつひとつの言葉の重みに胸が締め付けられる。
	著者	栃木県/編			
	出版社	栃木県			
	分類	270/セ	出版年	2016年	
	所蔵館	全館			

次代へ読み継がれていく本

	タイトル	黒い雨			原爆の激しさ、恐ろしさを声高に表現する作品が多い中、この作品は被爆者の日常をただ淡々と描いている。市井の人の上に冷たく降り注ぐ黒い雨。静かな光景が原爆の残酷さを際立たせ、平和の大切さを強く訴えている。(野間文芸賞受賞) ※埼玉福祉会発行の大活字本あり
	著者	井伏鱒二/著			
	出版社	新潮社（文庫）			
	分類	F/イブセ.マ	出版年	2003年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	ヒロシマ・ノート			戦争と原爆というテーマだけでなく、人間としてどう生きるべきか、戦争の記憶をどう伝えていくべきかという普遍的な問題を追求した作品。作者は広島での出来事を通して、倫理や責任、文学の可能性について深く掘り下げ、現代の人々に戦争の記憶と影響について真摯に考えることを呼びかける。
	著者	大江健三郎/著			
	出版社	岩波書店			
	分類	916/オ	出版年	2021年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	アンネの日記			第二次世界大戦下、ユダヤ人ゆえに隠れ家での生活をしいられるアンネ。13歳から約2年間にわたりつづられた日記では、辛くても、いつかまた幸福を見いだせると信じ、未来に希望を抱くことで自分を保つアンネの健気さや強さにふれられる。(ユネスコ記憶遺産)
	著者	アンネ・フランク/著 深町眞理子/訳			
	出版社	文藝春秋			
	分類	945/フ	出版年	2003年	
	所蔵館	全館			

戦争を知り、平和を願う本



	タイトル	戦争と平和 -80年の記憶-			新聞通信調査会による同名の写真展の図録。「戦後80年」を振り返る107枚の写真とコラム、識者による寄稿、年表からなる1冊。「戦争」と「平和」が、いかなる形をもって人々の前に現れるのかをビジュアルで伝える。
	著者	新聞通信調査会/編			
	出版社	新聞通信調査会			
	分類	748/シ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	「キノコ雲」の上と下の物語 孫たちの葛藤と軌跡			広島・長崎「二重被爆者」の孫と原爆投下機搭乗者の孫、正反対の立場から原爆に関わる2人の交流を通して、今後私たちが原爆という過ちを繰り返さないために学ぶべき事実をまとめた1冊。
	著者	原田小鈴/著 アリ・ビーザー/著			
	出版社	朝日新聞出版			
	分類	319.8/フ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	平和のうぶごえ 「原爆の子」として生きた80年			原爆被害者の手記をまとめた『原爆の子』という図書がある。この本に関わった子供たちは原爆被害や世間からの目に不安を感じながら懸命に生き、今もなお平和を伝える活動を続けている。その様子を当時の手記と合わせて紹介。
	著者	早志百合子/著			
	出版社	毎日新聞出版			
	分類	916/ハ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	アウシュヴィッツの小さな厩番			ドイツ出身のユダヤ人少年ヘンリーは、ナチスの迫害により家族を失う悲劇に見舞われる。収容所生活を支えたのは、偶然任された馬の世話であった。過酷な環境を生き抜き、2,011人の収容者の中で唯一の生存者となった彼は、自身の体験を通じ、憎しみを超えた平和の尊さを後世に伝えている。
	著者	ヘンリー・オースター/著			
	出版社	新潮社			
	分類	936/オ	出版年	2024年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	昭和20年8月15日 文化人たちは玉音放送をどう聞いたか			「1945年8月15日」は「日本のいちばん長い日」といわれる。その日を当時無名の司馬遼太郎や手塚治虫、映画女優の高峰秀子ら文化・芸能の分野の著名人たちがどう迎え、何を感じたかを自身の著作やインタビュー、周辺の人々の証言から解き明かす。戦争が終わったあの日とは。
	著者	中川右介/著			
	出版社	NHK出版			
	分類	210.75/ナ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	歴史的に考えること -過去と対話し、未来をつくる-			日清戦争から現在に至るまでの戦争について、原因と経緯を様々な視点で解説しながら、歴史を学ぶことの意義と意味を学ぶことができる、戦争を考える際の入門書。巻末には、読書案内としておすすめの文献や有用なデータベースを掲載。
	著者	宇田川幸大/著			
	出版社	岩波書店			
	分類	201/ウ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	<ガザ>を生きる パレスチナの若者たち10年の手記			英語で文章を書き、発信できるパレスチナ人の新世代を育てることを目指し、米の社会活動家であるパムとその教え子アフメドが立ち上げた「WAN」プロジェクト。これまでに323人が1300本以上のエッセイや詩をHPに発表。その中から、一部を紹介し、現地にいる若者達の現状や思いを伝える1冊。
	著者	アフメド・アルナウクほか/編 沢田博ほか/訳			
	出版社	原書房			
	分類	319.2/ア	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

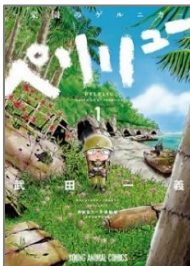
	タイトル	世界で最後の花 絵のついた寓話			人間が引き起こす愚かな争いの結果、世界はどうなってしまうのか。テンポよく綴られる言葉とシンプルな絵を読み進むと、直感的に心を揺さぶられていく。第2次世界大戦が勃発した年に出版された。
	著者	ジェームズ・サーバー/作 村上春樹/訳			
	出版社	ポプラ社			
	分類	933/サバ.ジ	出版年	2023年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	太宰治非戦小説集			『人間失格』や『斜陽』で有名な太宰治が戦前・戦中・戦後に書き残した小説17篇と戯曲1篇からなる作品集。声高な正義ではなく、日常の愛おしさがユーモア混じりに綴られた、「生」の尊さを感じられる1冊。
	著者	太宰治/著 村上玄一/編			
	出版社	幻戯書房			
	分類	F/ダザイ.オ	出版年	2025年	
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	わたしが戦場にいる			文学の中にある「戦争」を読むことで、戦場にいる体験ができるという著者。日本文学だけでなく、海外の作品の中から、戦争について描かれた場面を紹介。物語の世界で戦争を体験することで平和を考えるきっかけになる1冊。
	著者	小手鞠るい/著			
	出版社	偕成社			
	分類	904/コ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	昭和百年への鎮魂 江成常夫のレンズがとらえた戦争 (集英社新書)			写真家・江成常夫氏は、半世紀以上にわたり、戦場跡や遺品、そして歳月を重ねた生存者の姿を追いつけてきた。本書は、美術家・伊藤俊治氏がその圧倒的な作品群を「昭和百年」という節目を前に読み解いた1冊。
	著者	伊藤俊治/著			
	出版社	集英社			
	分類	740.2/エ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	戦争と美術 戦後80年、若者たちに伝えたい			戦争が美術に与えた影響を多角的に研究した1冊。戦争の悲劇や人間の苦悩を題材にした作品を通じて、芸術が持つ力を考察している。また、3人の著者それぞれの実体験を交えながら戦争と美術の複雑な関係性を深く理解することができる内容。
	著者	安斎育郎ほか/著			
	出版社	かもがわ出版			
	分類	704/ア	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	ペリリュー ー楽園のゲルニカー(全11巻)			太平洋戦争末期、南洋ペリリュー島で持久戦を命じられた日本軍守備隊の兵士たちを描いた戦争マンガ。史実と取材を参考にしたフィクションながら、戦争の悲惨さと平和の大切さを改めて考えさせられる作品。
	著者	武田一義/著 平塚証緒/原案協力			
	出版社	白泉社			
	分類	C/タケダ	出版年	2016年～ 2021年	
	所蔵館	中央・南			

発行 令和8年7月 編集・発行 宇都宮市立図書館

問合せ 宇都宮市立中央図書館 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57 電話 028-636-0231